

3 市場における「10年後の東京」への取組

東京都は、平成18年12月に策定した「10年後の東京」において、「世界で最も環境負荷の少ない都市を実現する」目標を示しました。現在、その実現に向けて「カーボンマイナス東京10年プロジェクト」及び「緑の東京10年プロジェクト」を推進し、さまざまな取組を実施しています。

中央卸売市場においても、この目標達成に向けたプロジェクト事業に積極的に取り組み、環境・衛生の保持に配慮した市場を目指していきます。

(1) カーボンマイナス東京10年プロジェクト

① 太陽光発電設備の設置

市場では、多量の電力を消費していることから、電力に起因する環境負荷の低減を図る必要があります。このため、再生可能エネルギーにより発電された電力の導入を進めることとし、使用電力量の一部をまかなうものとして建物屋上などへ太陽光発電設備を設置していきます。

今後、世田谷市場の既設太陽光発電設備を拡大整備するほか、北足立市場、豊洲新市場へも新たな太陽光発電設備を設置することにより、CO₂削減へ取り組んでいきます。

② 省エネ東京仕様 2007

豊洲新市場においては、施設整備に当たり最高水準の省エネ仕様である「省エネ東京仕様 2007」を適用し、建築物の熱負荷を抑制する設備や、高効率の設備を導入することにより、都有施設での率先行動として省エネルギー対策を進めていきます。

③ 断熱材フロンの焼却処理

市場には冷凍冷蔵施設が整備されており、その保冷部分には長年フロンガスを含むウレタン等の建材用断熱材が使用されてきました。

フロンガスはオゾン層を破壊するとともに、地球温暖化への影響も大きいガスです。現在、業務用冷凍空調機などの冷媒となるフロンガスはフロン回収破壊法により回収の仕組みがあり、建築用断熱材もメーカーなどの努力によってノンフロン化が進められています。しかし、過去に使用された断熱材を廃棄処分する際には法規制がないことから、通常は埋立処分されており、この場合は大気中へフロンガスが放散してしまいます。

このため、今後、食肉市場や築地市場などで予定されている都有冷凍冷蔵庫の解体工事の際は、環境技術の活用による温暖化ガス対策への率先行動として、廃断熱材を焼却することとし、断熱材に含有するフロンガスの大気中への放散を防ぐ取組を実施します。

④ アイドリング・ストップ対応用外部電源設備の設置

市場で生鮮食料品等の搬入搬出を行う車両には、品質保持のため冷凍冷蔵車が多く使用されています。これらの車両は、荷降ろしや荷積みのための待機時間に、予冷又は運転室の冷暖房のためにアイドリングを行っており、その際に排出される排気ガスと CO₂ が大気環境に大きな負荷を与えています。¹

このため中央卸売市場では、自動車排出ガス対策という意味合いも含め、外部から電力を供給するアイドリング・ストップ対応用外部電源設備の設置・普及に取り組んでおり、豊洲新市場では、190 口の外部電源設備を整備することとしています。²

(2) 緑の東京 10 年プロジェクト(市場施設・敷地の緑化)

市場では、これまでも施設整備に併せて屋上緑化などの緑化対策を実施してきましたが、全庁的な取組である緑の東京 10 年プロジェクトの展開にあわせ、より積極的に市場施設の屋上緑化や敷地内緑化を実施することとしました。今後、淀橋市場、豊島市場及び豊洲新市場の整備計画に併せて屋上及び敷地内を緑化するとともに、板橋市場、葛西市場及び足立市場へ新たに屋上緑化を実施するほか、食肉市場の屋上緑化を拡大し、クールルーフ³による省エネルギー対策を進めていきます。

「10 年後の東京」への取組

事業内容		規模	実施市場
カーボン マイナス 東京	太陽光発電設備の設置	約 200kw 約 50kw 約 1,000kw	北足立 世田谷 豊洲新市場
	断熱材フロンの焼却	約 360 m ³ 約 1,600 m ³	食肉 築地
	アイドリング・ストップ設備の設置	190 台	豊洲新市場
緑の東京	市場施設・敷地の緑化	約 550 m ² 約 130 m ² 約 90 m ² 約 620 m ² 約 390 m ² 約 480 m ² 約 123,000 m ²	板橋 葛西 足立 淀橋 豊島 食肉 豊洲新市場

¹ 21 頁参照。

² 24 頁参照。

³ 地球温暖化防止対策やヒートアイランド現象の緩和のために、屋上緑化により建築物の屋根などの表面を涼しく(クール)すること。屋上緑化をすることで屋上面の蓄熱を抑制し、室内への熱伝導を軽減することにより省エネや冷房コストの低減が図れる。また、植物の蒸散作用による潜熱化効果により気温上昇の抑制も期待できる。